

ボクとワタシの  
ことば ばなし 第5話

目 次

◆心の風景と 心の日本語	・・・・・・・・・・ 2
♪今はない暮らしの風景♪	・・・・・・・・・・ 2
♪どうして「豊かに」感じるの？♪	・・・・・・・・・・ 2
◆日本語メタボ症候群	・・・・・・・・・・ 3

## 日本語の研究

ボクとワタシの  
ことば ばなし 第5話

シンキング・バース

日本語研究班

心の風景と  
心の日本語

尾瀬戸に木の実の 落ちる夜は  
ああ かあさんと ただふたり  
栗の実 煮てます  
いろり端

**山**に咲く草花や、その風景を吹き渡る静かな風、それから、鳥たちのさえずりや虫たちの声。そんな景色をワタシたちは、とっくの昔に忘れてしまいました。取り戻そうとしても、どこか嘘っぽいし、わざとらしいと感じてしまいます。

心から懐かしいと思える景色は、日本中を探しても、たぶん、もうどこにもありません。というか、ワタシたちの心の中から、そういう風景が、失われてしまったのです。「そんな風景、まだまだ日本中にいっぱいあるよ」と言う人もいるでしょう。でも、その風景は、「絵になる風景」というだけなのではありませんか？

その風景の中に、ワタシの知っているおじいさんやおばあさんの姿は、もうありません。いくら探しても、もういないのです。

## ♪今はない暮らしの風景♪

**ワ**

タシの好きな童謡があります。ずっと昔から歌い継がれている歌です。こんな歌です。

静かな静かな 里の秋

お父さんがいない萱ぶき屋根の家で、お母さんと二人っきりで、栗の実をコツコツと煮ている。そんな風景って、お金持ちの人たちの風景ではありません。たぶん貧しい暮らしを、歌詞にしたのでしょうか。

お母さんが、いろり火にかけた鉄鍋の木ぶたを、時々開けてみたりしています。しんみりとした夜、二人共、黙って栗の実が煮える音を聴いています。寂しいと言えば、寂しい風景です。

## ♪どうして「豊かに」感じるの？♪

**で**

も、どうしてワタシは、その歌詞と曲に、「豊かさ」を感じてしまうんでしょう。満たされたような、懐かしさを感じてしまうんでしょう。

「お母さんが煮てくれた栗の実、おいしかったなあ」

「煮えるのを待ってる時間も、ワクワクしてたっけ」

ワタシも経験したことがないような、幼い子供の頃の思い出が、この歌詞には詰まっています。目には見えないけれど、とっても豊かな心を、この歌詞は伝えているような気がします。それは、今を生きる人た

## ボクとワタシの ことば ばなし

ちが、普段の暮らしの中で知りようがない  
幼い子供の思い出です。

ワタシが失ったと言ったのは、そういう  
心の風景のことなのです。

日本語  
メタボ症候群



♪このお話は、♪  
♪もう少しお待ちくださいね♪



## ボクとワタシの ことば ばなし



続編はちょっぴり固いお話

### 第1話

- ・ことばとリズムのお話
- ・オノマトペを探検しちゃえ
- ・日本語は二刀流だよ
- ・明治翻訳語を今ドキ評価だ

### 第2話

- ・残されないことば
- ・「共通語」がやっぱ変だべさ
- ・「噂ことば」と「仕事ことば」

### 第3話

- ・「です」の物語
- ・ちょっと困った「新東京ことば」
- ・言語スイッチの切り替え

### 第4話

- ・世界の言語と日本語
- ・言語環境と言語生活
- ・文字の歴史

### ボクとワタシの言語対談

- ・めちゃんこファンタジー

#### シンキング・バース新書

#### ボクとワタシの ことば ばなし 第5話

2017年10月10日（初版）発行

著者：シンキング・バース  
日本語研究班  
発行者：遊佐 芳泰

発行所：シンキング・バース  
〒021-0821  
岩手県一関市三関字神田105番5号  
電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。